

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401806		
法人名	株式会社 風和里		
事業所名	グループホーム ふわり新発寒 1階		
所在地	札幌市手稲区新発寒6条9丁目 3-4		
自己評価作成日	平成29年11月25日	評価結果市町村受理日	平成29年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であっても今までの暮らしの延長が出来 今出来る事を活かしく普通の生活の場として一人一人の意思を尊重し家庭的な関係と雰囲気の中で生活が継続させられるよう心がけている。スタッフ間で意見交換がしやすくスタッフ一人一人の特技を活かす事が出来 資格取得や研修を受けやすいシステムを取り入れている。町内のイベント等にも積極的に参加する様心がけている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0170401806-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年12月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市郊外の閑静な住宅街にあり、公園、町内会館、コンビニ、病院などにも近く、住環境に恵まれた場所に立地し、木のぬくもりを感じるログハウスタイプの2階建て2ユニットの事業所である。職員は研修等で自身のスキルアップを図りケアの向上に励むとともに、家庭的で明るい雰囲気の環境づくりを目指しており、利用者との信頼関係の構築に努めている。事業所では、毎月家族へ本人の日常の様子や訪問診療の結果、行事予定、さらにスタッフの紹介などを内容とした写真入りの「お便り」を個人ごとに作成し情報提供しており、家族への安心感に繋げている。運営推進会議は定期的に年6回開催し、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター、家族等が参加して事業所の取り組み状況や活動等の報告及び質疑・意見交換などが行われ、今後の運営に活かされている。地域との連携として、町内会の各種行事には積極的に参加するとともに、事業所が行う敬老会、クリスマス会等への住民参加や近隣幼稚園児の来訪(年2回)など、地域の一員として日常的に交流を深めている。理念を実践に繋げるため、地域との交流を深めつつ、利用者一人ひとりの意思を尊重し、個々に寄り添う姿勢でケアサービスの支援に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や各階のスタッフルームに掲げ研修やカンファレンスでも話す機会がある。	理念の文言の中に、「地域に根ざし・・・」といった言葉が謳われており、これらの精神は、カンファレンスや研修時の他、日常的には玄関、スタッフルームに掲示され、職員は互いに共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の様々なイベントなどに出来る限り参加出来る様にしている。	町内会の各種行事(夏祭り、新年会、町内会館での催事物等)には、職員と一緒に参加している。また、事業所が行う敬老会、クリスマス会等への地域住民の参加をはじめ、近隣の幼稚園児が年2回来訪するなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外に出て行く事でご挨拶や会話をして行く事でご理解いただける様に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	必ずご意見を伺う時間を設けてスタッフ間で共有しサービス向上に活かしている	町内会役員、民生委員、地域包括支援センター、家族等が参加の下で定期的に年6回開催し、取り組みや活動状況等の報告を行う他、参加者からの意見・要望等を聞き入れ、会議内容の結果は家族へ周知して情報の共有化を図るなど、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者や本社部長が都度連絡を取っている	日常的には生活保護、介護保険等での手続き関係、その他必要の都度、担当行政窓口を訪ねる機会があり、その際種々相談や情報交換を行い、日頃から連携を密にして協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスやチェックリストを活用し意識づけをし取り組んでいる。各階に11項目を掲示している	研修会やカンファレンスの場に加え、「身体拘束・虐待防止」に関するマニュアルが整備されており、チェックリストに沿って確認を行いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士で意識しチェックリストで振り返り防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだ情報等を共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	継続しいつでも話し合える様に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見やご要望をお聞きする時間を設けており、内容は共有し反映に努めている	家族の来訪時や運営推進会議、意見箱などを通して得られた意見等については、毎月のカンファレンスにおいて検討を加え、実践に繋げるよう努めており、毎月発行の「ホーム便り」を活用して運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や御来訪の際に言いやすい雰囲気作りを心がけている	定例会議として、月1回のカンファレンスとユニット会議及び半年ごとに個人面談が行われ、職員が発言し易い雰囲気づくりに配慮しながら意見・提案を出す機会を設け、職員の意見等を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度目標を作り振り返りながら1人1人と面談を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に積極的に出席しやすい様に費用は会社負担とし取り組みやすい様にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所や利用者様が一緒に御来訪して頂く。交流の機会が出来る様取り組みをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1での会話の時間を大切に信頼関係が築ける様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期からご入居後もお話をする時間を持つ事で関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を多く収集し今何を必要とされているのか知る姿勢を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する家族の様な関係を築き安心して過ごせる様な関係を心掛けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に入居者様の日々のご様子をお伝えし共に相談や意見を出し合い考える事で関係が築けるように心掛けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元同僚の方やご近所だった方が御来訪やお電話、ハガキのやり取りなどで関係が途切れない様にご支援している	友人や知人などの来訪時には、居間や居室でゆっくり寛いでもらおう支援している。馴染みの人等の情報はアセスメントシートにより把握しており、電話やハガキにより人や場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には仲介し会話やレクを通じ孤立しない関係作りに努めている。1、2階の交流も行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節のご挨拶のお葉書などを送らせていただいている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話ししやすい雰囲気や会話の時間を大切にすることで1人1人の思いを共有し把握に努めている	本人の意向や家族からの情報及び本人の日常の様子、気づき事項などは支援記録に記録し、個人毎に把握している。また、状況変化や介護計画変更時には、随時カンファレンスなどにより情報を職員間で共有し、本人の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前後の環境が余り変化が無い様に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスで日々の様子を共有したり支援記録なども活用し把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援記録やカンファレンスなどでスタッフ間で情報を共有し現状に即した計画を立てている。	本人や家族の希望・意向を支援記録などで把握の上、これを元にカンファレンスで情報を共有して介護計画を作成し、毎月モニタリングを行っている。計画は3か月毎に見直しを行い、状況が変化した場合はその都度医療関係者、職員が連携してカンファレンス等で検討し、現状に即した計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録やD5を基に活かせる様にしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念を持たず一人一人の思いに添える様取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様と一緒に地域のイベントに参加したり幼稚園との交流をし支援に努めている			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様に往診に同席して頂く事や細目な報告相談をし指示を頂き支援している	希望により、これまでの病院をかかりつけ医として利用できるよう関係を継続し、受診の際には家族が困難な時は職員が同行している。協力医療機関による月2回の往診があり、受診結果は家族へ知らせており、適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を記録や口頭で伝えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員や看護師との情報を共有し関係作りをしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ゆっくりと考える時間や状況で相談を重ねチームで取り組めるよう努めている	入居時に「重度化した場合における介護（看取り介護）指針」に基づき、本人・家族へ説明して同意を得ている。利用者に重度化等、状態に変化が生じた場合は家族と医療関係者を交えて相談し、チームとして支援に取り組んでいる。	看取りは経験していないが、今後、家族等が看取りを希望するケースも考えられる。その時に備え、受け入れ体制（マニュアル、研修・勉強会等）の一層の強化に向けて検討されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや情報や知識を共有し連絡体制を整え対応できる様に努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内の災害対策会議に出席している	消防署の協力の下に、年2回の火災避難訓練を始め、水害や地震を想定した訓練を実施している。災害予防マニュアルの整備や水・食料等3日分の備蓄品を準備している他、町内の災害対策会議にも出席し、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に配慮したかかわり方が出来る様に努めている	個々人の習性、行動等を情報として把握し職員間で共有して、一人ひとりの羞恥心やプライドを損ねないよう言葉掛けに気配りしながら対応している。事故・ヒヤリハットについては、カンファレンスで個別に検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促しやすい声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活リズムに合わせた支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみの時間を急かせたりせず一人一人のお気持ちに添ったおしゃれをして頂き ハリのある生活が出来るよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備する事で他者とのコミュニケーションなど、より楽しく食事が出来る様努めている	献立、食材の選定は専門業者によって行われているが、随時行事食(誕生日会、敬老会、クリスマス等)や外食を取り入れ、楽しい食事となるよう工夫している。また、利用者が職員と一緒に食事の準備とか後片付け等の手伝いを行うなどにより、家族的雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を摂って頂けるよう声掛けの仕方や量、温度等工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医や衛生士の指導の元、毎食後の口腔ケアや声掛け見守りを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のリズムに合わせて声掛けや見守りを行っている	一人ひとりの排泄パターンを排泄表で把握し職員間で共有しながら、その人の生活習慣と自尊心に配慮した声掛けや見守り誘導によって、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っており、これまでリハビリパンツから布パンツへ改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動や乳製品の提供で予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に合わせて声掛けし入浴後の衣服等をご自分で選択して頂ける様支援している	入浴日は特に定めがなく、週2~3回程度本人の体調や気分等に応じ柔軟に対応している。入浴を拒否する利用者には、介助職員や時間を変更するなどにより入浴を促している。また、時には柚子湯、菖蒲湯の日を設け、入浴を楽しむ支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し日中の休息、夜間の入眠と安心してお休みして頂ける様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を共有し入居者様に合わせた服薬の支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみながら出来る様なお手伝いやゲーム等を提供し出来る事に着目してハリの生活が送れる様支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をスタッフ間で共有しスタッフが連携し同行している	ホーム周辺の公園散歩、買い物などの日常的な外出支援の他、外出行事として、ドライブ、花の観賞(紫陽花、ラベンダー等)、近郊の公園、紅葉狩り等へ年数回外出の機会を設けて、外出への支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常にご自分で財布を持たれている方もいらっしゃるなど買い物に同行し支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レクにもお葉書を出す事など取り入れたり、ご家族様のご協力を頂きお電話やお葉書を出すなど支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で季節の飾りなどを制作したり安心できる共有スペースである様に心がけている。	食堂、リビングには広い窓から陽が射し込み、開放的で明るく、また、台所を中心とした回廊式設計の共用空間となっている。ここには、季節感溢れる飾り物(クリスマス飾り等)や利用者・幼稚園児の手作りの絵作品等の展示もあり、寛ぎ感が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の気分や体調に合わせて自由に休める場になる様にしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族にお任せし馴染みのある物やお好きな物等で自分のお部屋と認識して頂ける様にしている	居室には、使い勝手の良い広いクローゼットなどが備え付けられ、利便性に配慮している。利用者はこれまで使い慣れたベッド、タンス等の家具や、馴染みの物(写真、飾り物、置物、ポスター等)を持ち込み、その人にとって居心地の良い居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	判りやすい様に工夫している		